



げんきいっぱい

平成29年度 No.3



新学期が始まり、1カ月がたちました。新しいクラスには慣れてきましたか？ 昨年度からきのかわ支援学校に通っていたお友達が、新しく来たお友達に、学校のことを教えてあげたり、仲良く遊んだり、心温まる場面をたくさんみかけます。5月は疲れがでやすい時期でもあります。規則正しい生活習慣を心がけ、元気に学校生活を送っていきましょう。

【5月の保健行事】

1日(月)	体重測定(小)
2日(火)	体重測定(小)
8日(月)	体重測定(小)
9日(火)	体重測定(中)、検尿(二次)
10日(水)	体重測定(中)、検尿(二次)
11日(木)	体重測定(中)、歯科健康診断(1小、2小高、中学部)
16日(火)	内科検診(中)
17日(水)	眼科検診
30日(火)	内科検診(小)



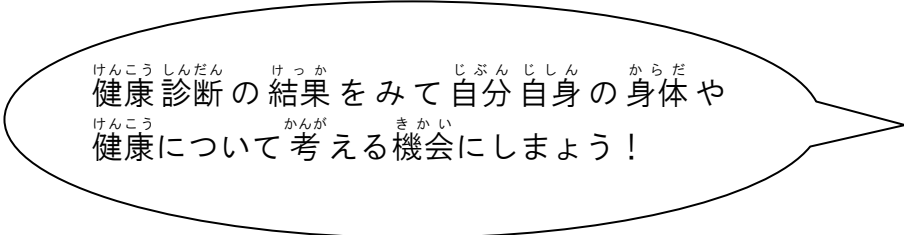
※この他にも、視力・聴力測定やバイタルチェックを随時実施していきます。

視力測定の際めがねを、聴力測定の際補聴器を、使用している児童生徒は必ず持参するようにして下さい。

健康診断結果を配付します

4月より、健康診断が始まっています。結果については、終わった検診から随時返却します。精密検査や治療が必要な場合は、早めに医療機関を受診して下さい。受診後は、今後の保健管理のため、受診結果をお知らせ下さい。

なお、学校での健康診断は、治療を目的とした診断とは異なるため、病院での検査結果と異なる場合があることをご承知下さい。



健康診断の結果をみて自分自身の身体や健康について考える機会にしましょう！





成長曲線・肥満度曲線の活用について

健康診断マニュアルが改訂され、児童生徒の発育を評価する上で、成長曲線・

肥満度曲線を積極的に活用することが重要であるとされています。



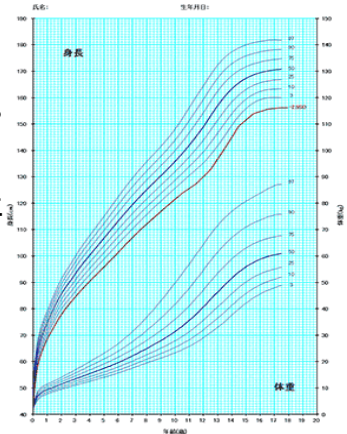
成長曲線・肥満度曲線とは？

身長や体重がどのように増加しているのかを経年的にみていくものです。児童生徒が適正に成長しているかを判断するために使用します。

成長曲線を使用することの意義

- 一人一人の児童生徒特有の成長特性を評価できる。
- 「肥満」や「やせ」といった栄養状態の変化について評価できる。
- 低身長、高身長、特に性早熟症と比べて一時的に身長伸びがよく、急速に伸びる身長のことを喜んでいたり、早期に身長伸びが止まって、最終的に極端な低身長になる病気などを早期発見できる。
- 成長曲線と肥満度曲線を併せ用いることで、肥満ややせの状態を分かりやすく評価できる。

身長・体重成長曲線



本校での活用方法

内科検診時に成長曲線・肥満度曲線についても学校医にみていただきます。(小・中学部のみ) 検診終了後、成長曲線・肥満度曲線を返却しますので、受診の必要な場合は、専門医の診察を受けて下さい。(以前から診断を受けている場合や主治医がいる場合は、その指示に従って下さい。)

※成長には個人差があります。受診が必要となった場合、必ずしも病気であるというわけではありません。

歯のコラム①

～自分にあった歯ブラシを使おう～

①毛のかたさ→ふつう

かたすぎると、歯ぐきやエナメル質を傷つけてしまいます。また、柔らかすぎると、汚れをしっかりと落とせません。



②歯ブラシのヘッド→小さめ(上の前歯2本分ぐらい)

大きすぎる歯ブラシを使用すると、奥歯に届きにくく、口の中を傷つけてしまう可能性があります。

③歯ブラシの交換時期→1カ月

毛先が広がっている歯ブラシを使用しても、汚れを落とせません。

